

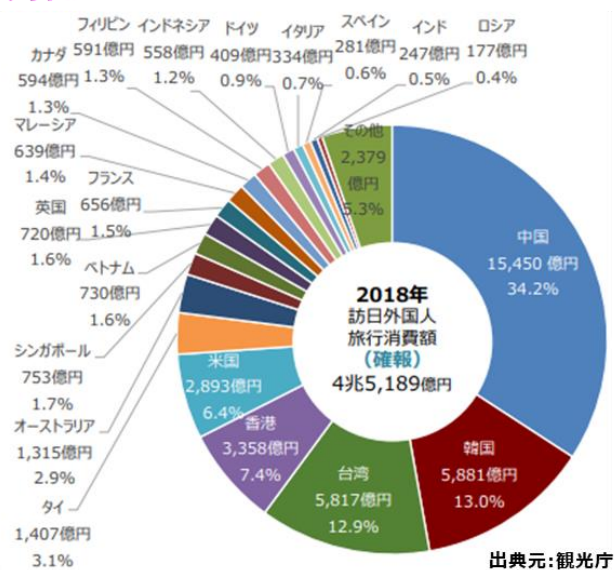
# インバウンドコラム

## 2018年訪日外国人消費動向

### 宿泊、飲食、交通、娯楽・サービス、買い物 費目別ランキング

2018年の訪日外国人旅行消費額は、総額4兆5,189億円でした。(参照※1、グラフa)2018年からクルーズ客の旅客を年別調査結果へ反映しているため、昨年と単純には比較できず参考値となりますが、昨年2017年の4兆4,162億円から増加率は2.3%。2016年度比17.8%増加した2017年に比べると大きく伸び悩んでいます。(参照※1、グラフb)費目別の訪日外国人旅行消費額の構成比では、2017年より引き続き買物代が34.7%と最も多く、宿泊費(29.3%)、飲食費(21.7%)と続きます。2017年に比べると、宿泊費と飲食費、娯楽等サービス費の構成比が1%ポイント以上増加し、買物代の構成比が2.4%ポイント減少しました。(参照※1、グラフc)

グラフa



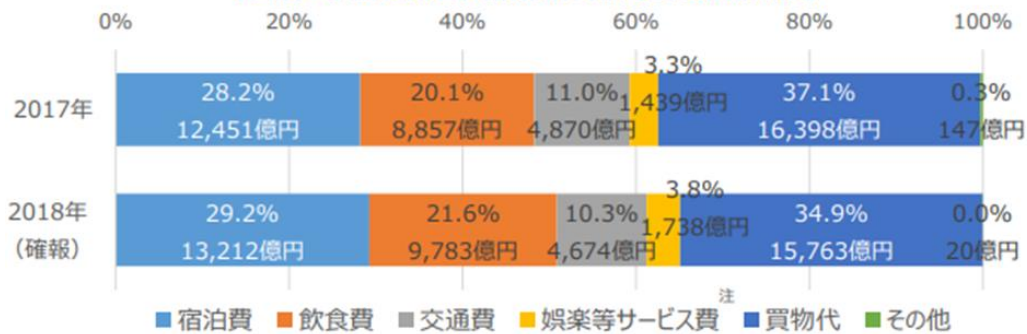
グラフb



出典元:観光庁データ元にAUN作成

グラフc

【図表2】訪日外国人旅行消費額の費目別構成比

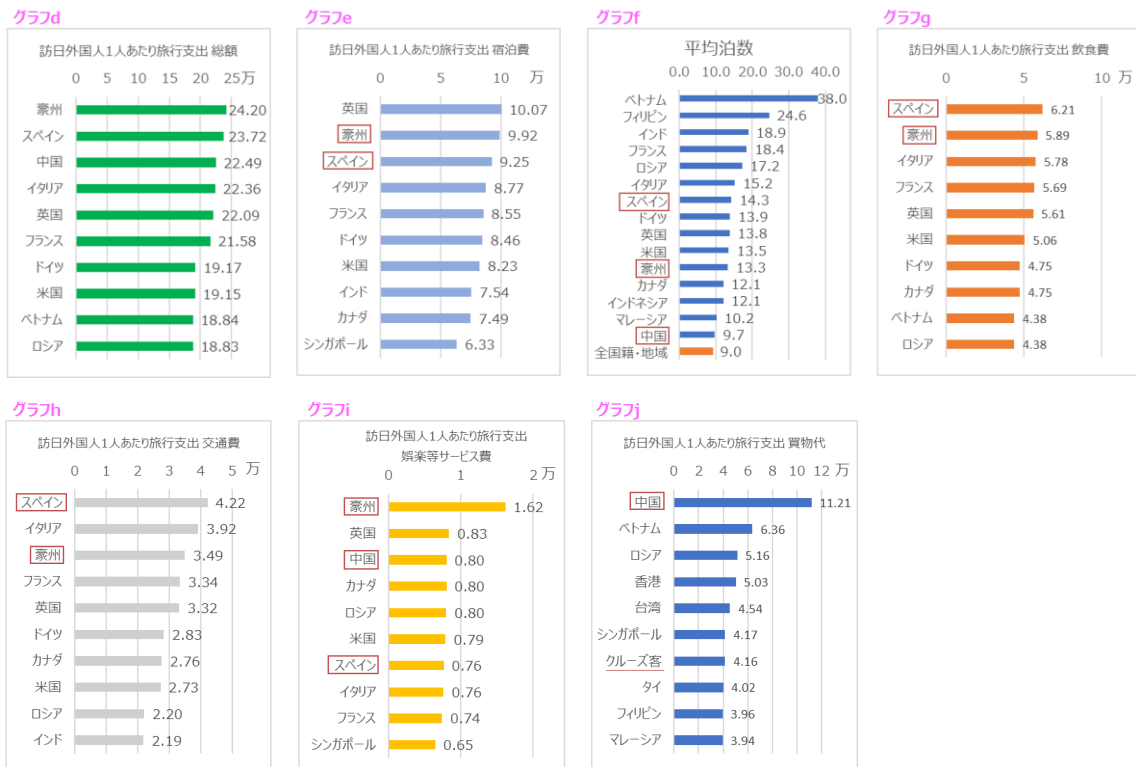


注) 2018年1-3月期より、サービス消費をより詳細に把握するため「娯楽サービス費」に「温泉・温浴施設・エステ・リラクゼーション」「マッサージ・医療費」等の費目を追加し「娯楽等サービス費」としたため、前年同期と単純比較はできない。

出典元:観光庁

2018年の訪日外国人(一般客)1人当たり旅行支出(速報)は15万3千円の推計で、前年比はこちらも参考値ですが-0.6%減っています。国籍・地域別では、オーストラリアが最も高く24万2千円、次いでスペイン23万7千円、中国22万5千円と続きます。(参照※1、グラフd)オーストラリアとスペインが爆買のイメージの強い中国より上位です。どの国がどこにお金をかけているのか、費目別に消費額ランキングトップ10をグラフにしてみました。宿泊費において、1位は英国、2位オーストラリア、3位スペインと総額トップ2が上位に並びますが、中国は14位でトップ10ランク外です。(参照※1、グラフe)宿泊費と比例して平均泊数も多いのか比べてみたところ、スペインが14.3泊、オーストラリアは13.3泊、中国は9.7泊で、いずれも全国籍地域平均の9.0泊を上回り、極端に中国の泊数が短いということはありません。(参照※1、グラフf)飲食費と交通費でもスペインとオーストラリアは上位です。(参照※1、グラフg)(参照※1、グラフh)また、オーストラリアの娯楽等サービス費1万6171円は2位の英国8,341円のほぼ2倍です。そして、この費目で中国

が3位にランクインしていました。中国大手OTAで、盛んに中国人旅行者のコト消費へのシフトが報じられていますが、訪日中国人旅行者の数値にもそれが現れているようです。(参照※1、グラフi)しかし、買物代は相変わらず中国が1桁違いでダントツトップということは変わりません。買物代ランキングには7位にクルーズ客もランクインします。(参照※1、グラフj)



グラフd～j 出典元:観光庁データ元にAUN作成

中国人コト消費については、BUSINESS INSIDER JAPAN の中国富裕層富山県高岡市視察旅についての記事を興味深く読みました。伝統工芸のものづくりを見学する視察ツアーですが、嵐のように買物をする中国人ツアー客に、思わず「買すぎ」とつばやく同行の日本人。(参照※2)オーストラリア人や英国人は、体験にお金を払いますが、アジアと違いお土産文化はないので、本当にその場で体験して終わり。自分が作った作品などは持ち帰るけれど、関連商品まで買い込む人はそれほど多くないと思います。体験ツアーでも、国ごとにお金をかけるところが違います。自社のどんなサービスや商品をどうすれば、どの国の人に受け入れられるのか。消費動向にあわせた戦略が必要です。

※1 2018年訪日外国人消費額(確報) 観光庁  
<http://www.mlit.go.jp/common/001283138.pdf>  
 ※2 コト消費 | BUSINESS INSIDER JAPAN  
<https://www.businessinsider.jp/post-178073>